

国産レンガの灯台

| | |
|---------|---------------|
| 登録番号 | 第002号 |
| 名称(型式等) | 犬吠埼灯台 |
| 所在地 | 千葉県銚子市犬吠埼9576 |
| 設立年 | 1874年(明治7年)点灯 |

選定理由

日本における西洋式灯台の建設は、1866(慶応2)年に江戸幕府がアメリカ・イギリス・オランダ・フランスの4か国と締結した条約(改税約書)において、貿易の発展に重要な外国船の安全航行のために灯台建設を約束したことに始まる。この条約により神奈川県三浦半島の観音埼灯台、千葉県の野島埼灯台など灯台8基、灯船2隻が建造されることになった。このとき、アメリカから犬吠埼灯台の建設が要望されたが、実現されなかった。

その後、新政府により新たに灯台の建設が計画され、最優先と評価された犬吠埼灯台は1872(明治5)年に起工し、1874(明治7)年11月15日に点灯された。設計・指導は、イギリス人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンが担当している。

灯台の建設には大量のレンガが必要であったが、ブラントンはイギリス製のレンガを要求した。これに対し、灯台寮技師中澤孝政は国産品の使用にこだわり、レンガに適した土が香取郡高岡村(現成田市下総地区)にあることをつきとめた。苦心の末に国産レンガの製造に成功し、灯台及び付属舎には、約19万3千枚の国産レンガが使用されたのである。

以後約140年間(2016年現在)、関東大震災や戦災にも耐え、現在もなお健在でレンガ造りの灯台としては日本で二番目の高さを誇っており、「世界の灯台100選」に選ばれている。



完成当時を描いた錦絵

1983(昭和58)年の調査で劣化が著しく、建て替えまたは大改造が必要であると判断された。そのため、歴史的・文化的価値の保存に留意した改修工法により1987(昭和62)年にレンガとコンクリートの合成構造で補強する工事が行われた。現在は建設当初よりも直径が約20cm太い白亜の灯台となっている。



R・Hブラントン肖像写真
(旧犬吠埼航路標識事務所所蔵)



使用された赤レンガ
(犬吠埼灯台資料館蔵)

【協力】

犬吠埼ブラントン会、銚子海上保安部

【参考資料】

- 『お雇い外人の見た近代日本』
R・Hブラントン／徳力真太郎訳(1986)
- 『犬吠埼灯台関係内外資料集』
犬吠埼ブラントン会(2015)
- 『犬吠埼灯台史』銚子市観光協会(1935)
- 『日本灯台史100年』海上保安庁灯台部(1969)
- 『航路標識技術要報 27』
海上保安庁灯台部工務課(1988)
- 『千葉県の産業・交通遺跡—千葉県産業・交通遺跡
実態調査報告書』千葉県立現代産業科学館(1998)